別記様式(第5条関係)

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td>平成２８年第１回総合教育会議</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td>平成２８年７月２１日(木)　午前１０時４５分から
午後　０時　６分まで</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>福津市立図書館　研修室１</td></tr>
<tr><td colspan="2">委員名</td><td>(1)　出席委員　小山市長、下山委員長、笠置委員、
藤井委員、青木委員、金子委員
(2)　欠席委員</td></tr>
<tr><td colspan="2">所管課職員職氏名</td><td>小田副市長、溝辺教育部長、永島総務部長、中村健康福祉部長、花田理事兼こども課長、池田教育総務課長、増田学校教育課長、脇野郷育推進課長、川﨑広報秘書課長、横山福祉課長、吉住主幹兼指導主事、森指導主事兼教育指導係長、長友総務企画係長</td></tr>
<tr><td rowspan="5">会議</td><td>議題
(内容)</td><td>・福津市教育施策　大綱の策定を見据えて</td></tr>
<tr><td>公開・非公開の別</td><td>■公開　□非公開　□一部公開</td></tr>
<tr><td>非公開の理由</td><td></td></tr>
<tr><td>傍聴者の数</td><td>０　名</td></tr>
<tr><td>資料の名称</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">会議録の作成方針</td><td>□録音テープを使用した全文記録</td></tr>
<tr><td>■録音テープを使用した要点記録</td></tr>
<tr><td>□要点記録</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">会議録署名委員</td><td></td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">その他の必要事項</td><td></td></tr>
</table>

審議内容　（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
１　開会の宣言 川﨑：ただいまから「平成２８年度第１回福津市総合教育会議」を開会します。私は本日の司会進行を務める広報秘書課の川﨑です。よろしくお願いします。 本日の会議は、お手元にお配りしております会議次第に沿って進めてまいります。 ２　挨拶 川﨑：まず、小山市長に挨拶をお願いします。 市長：皆さん、おはようございます。第１回目の総合教育会議でありますが、たまたま先月の西日本新聞に掲載された内容について、聞きたいこともあると思います。基本的に市の発展というのは、同時にすべての人材の育成であると思っておりますので、その象徴的な形でこの教育に関することが多く出てきたところであります。どうぞよろしくお願いします。 川﨑：本日の協議日程ですが、会議次第をご覧ください。「福津市教育施策大綱の策定を見据えて」をテーマに、市長の考える福津市のこれからの教育像を語っていただき、それを受けて、市長と教育委員の皆さんに、フリートーク形式で意見交換をしていただきたいと考えております。そして、正午をめどに終了させていただきたいと思っております。 会議出席メンバーは、次第及び席次表のとおりですので、執行部の自己紹介は省きます。 御承知のように、昨年度から新たに始まった総合教育会議ですが、通常であれば年３回を予定しております。今後の会議につきましては、福津市教育施策大綱の策定を主題として今回を含めて来年度までに６回をかけて、意見交換を重ねながら策定してくこととしています。 ３　説明及び協議 それでは、３番目の協議に入らせていただきますが、その前に、小山市長から委員の皆さんにご承認いただきたいという件があるということですので、市長よろしくお願いします。 市長：総合教育会議の今後の流れについては、広報秘書課長から説明があったとおりです。昨年度の第１回目の会議では、法改正により市長の私が新たに策定することとなった「福津市教育施策大綱」につきましては、総合計画をはじめ分野別計画の期間中である平成２８年度までに、「福津市総合計画」「福津市教育総合計画」「福津市教育ドリームプラン」をもって、大綱と位置づけることを承認していただきました。そのうち、検討を重ね、次期の福津

市総合計画の始期については平成３０年度からとし、平成２９年度の１年間は現計画をそのまま適用し、次期総合計画は本年度から２年をかけて策定することを本年５月に決定いたしました。「福津市教育施策大綱」は、福津市総合計画と同一歩調で整合をとり、策定していく方針としておりますので、大綱につきましても平成２９年度まで延長し、みなして取り扱うことを再度御承認いただきたいと考えております。いかがでしょうか。（全員賛成）御了解いただきまして、ありがとうございます。大綱につきましては、総合的な施策の目標や、根本となる方針を定めるものでありますので、次期策定の「福津市総合計画」との整合を図り、策定する予定の「福津市教育総合計画」では、学校教育の分野、生涯学習、スポーツ文化などの社会教育の分野、子育て支援を含めた幼児教育や家庭教育の分野など、教育を幅広く、それぞれの視点をもって、教育施策への反映を検討し、大綱の姿をお示ししたいと考えています。そのために、この総合教育会議で意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

川﨑：本日は第１回目の会議です。そこで、市長がこれまで進めてきた「まちづくり」を中心に、自然環境や都市環境、利便性がミックスされた福津市の魅力や、地域と一体となった教育の取組や市長が考える「福津市のこれからの教育像」について、今の思いを語っていただきます。それに対して、教育委員の皆さんの感想、意見を伺いますのでよろしくお願いします。

市長：西日本新聞の記事を拝見しましたが、よくまとめていただいたなという思いをもっております。特に福津市が他の町あるいは地域よりも特徴的なものがコミュニティ・スクールであります。このコミュニティ・スクールの現在の動きが、福岡県内はもちろん、県外、特に文部科学省におきましても高い評価をいただいております。いろんな学校が、あるいはいろんな市がコミュニティ・スクールに取り組もうとしていて、また文科省も推進していますが、私は福津市のコミュニティ・スクールは、他にまねができないと思っております。

まず、大きな特徴が、すべての小中学校にあることです。それは、大きな特色の一つです。また、郷づくり活動と郷育カレッジの二つが、この福津市のコミュニティ・スクールの背景に大きな屋台骨あるいは地盤として存在しています。

福津市の郷づくり活動の特徴は、学校と教育の両方に関係が深いことです。それは、宗像市のコミュニティ活動と比較しても学校との取組が非常に多い。学校との関係が非常に不可欠だというのが大きな特徴であると思います。

もう一つの郷育カレッジでは、そこで学んでいる人が町の歴史、それから古墳などについて、中学生に教えている特別教育があります。郷育カレッジで学んだことを次の世代へつないでいこうと

いう姿勢が見られ、郷育カレッジの受講生と中学生との関係が非常に深いというのが、他の学校では簡単にまねできないのではないかと思っております。

昨年の文化祭で私が神興東小学校に行ったとき、児童たちが古墳の話をしていまして、どこの古墳のことを話しているのか私にはさっぱり分からなかったのですが、非常に具体的で、細かい分野まで他の児童に向かって話をしていたので、びっくりしました。そこで私は、どこで教わったのかと聞いたら、「地域見守り隊のおじさんが教えてくれた」と言うんです。地域のことをおじさんが教えてくれたから、それを友達に教えてあげるという光景を見た時に、これはやっぱりすごいと感心しました。郷育カレッジが持っている強さというか、この特徴は他の地域には簡単にまねできないだろうと思いますね。福津市のコミュニティ・スクールが今福岡県でトップと言われる前は、春日市がコミュニティ・スクールの福岡県代表と言われていました。先日、その春日市の市長と話す機会がありました。「福津市の郷づくり活動はどんな特徴がありますか」と尋ねてきたので、「コミュニティ・スクールの絡みが一番深い」と答えました。すると春日市長は、「自治会長が中心となってコミュニティ活動を推進することについては異論は出ないと思うが、コミュニティ・スクールも着手するとなると、うちでは自治会長になる人がいなくなるでしょうね」と彼は言ったのです。コミュニティ・スクールに郷づくり活動が絡んでいるということは、春日市がまねできない一番の理由だと思います。つまり、市の大きな柱であります官民協力、郷づくり活動との連携というのが福津市の特長でもあり、今から先も大事に育てていかないといけないことだと考えます。ですから、郷づくり活動と学校と家庭の連携が今以上にうまくいくと、子どもたちの姿がもっと輝いてくるのではないかと思っております。

福津市に転入してきた人に話を聞く機会があって、「福津市を選んだ理由は、福岡市に近い割には物価が安いから」という答えが返ってきたことが、私の耳に残っています。それともう一つ、「福津市に来てから、子どもが明るくなった」という声であります。子どもたちが笑顔になれるというのが何よりです。

今年の４月に福岡県の小川知事がこの福津市に来られて、市内３中学校の生徒会会長・副会長と懇談をされた時の雑談の中で、「私が中学生の頃と比べると、全然違う。この生徒たちはとてもしっかりしている」と絶賛していました。さらに、熊本地震のことについて小川知事は以前、「何か応援したいと思ったら、無理をせずに皆さんでできることをやればいい」とおっしゃったんですが、知事からのアドバイスということで生徒たちが一生懸命募金活動をして、それを県教育委員会と県庁に届けることにしたのです。小川知事がそのスケジュールを聞かれて、仕事の合間をぬって直接受け取ってくださいました。子どもたちも感動的で

あっただろうと思います。小川知事自身も、自分が言ったことを中学生が素直に受け入れてくれて頑張ってくれたことに対して非常に驚いたとおっしゃってましたので、福津市の中学生の意気込みたるや、我々もまねるべきところはまねたほうがいいという感想をもった次第であります。

川﨑：市長の思いの一部を語っていただきました。これに対して何かご感想やご意見などありましたらお願いします。

下山：今、市長の言葉を聞いて、やはり人づくりがまちづくりのベースにあるというような気がしています。さて、郷育カレッジのことなんですが、郷育カレッジの受講生が中学生や小学生にも教え伝えて、さらに子どもたちが友達に広めているというお話ですが、郷育カレッジで学んだ方が、どういったところで活躍しているのか、そしてまた、郷育カレッジをこれからどういうふうに広げていこうと考えているのか、さらにそれを学んだ子どもたちがどのように地域の人たちにそれを発信するのかといったところを市長がどのように考えているのかをお聞かせください。

市長：郷育カレッジは今の状態をそのまま続けていけばいいと思っております。これが中学生や小学生に聞いてもらったということは、非常に大きなことです。郷育カレッジで学んだことを、次の世代に自分が教えることができるということは、新たな喜びではないかなと思います。できる限り郷土に愛着をもって、さらに勉強してもらえたらいいなと思っております。次世代の子どもたちに教えていくことが福津市の深い郷土愛にもきっとつながっていくはずですから、郷育カレッジの受講生の皆さんには、次世代にいいものを残していただきたいと思っております。

下山：私もシルバー世代に入ってからよく感じるのは、子どもたちと接することによって子どもたちからエネルギーをもらうことです。「幼老共生」という言葉があります。子どもたちは、お年寄りがこれまで学んできた引き出しを引っ張り出して、それをもらうことで学習していく。お年寄りは、話を聞かせることによって子どもの笑顔からエネルギーをもらう。両方にとっていいことだと思います。このことを踏まえると、この郷育カレッジというのは非常にいい試みだなと思います。そこで、さらに子どもたちが生活する場所とお年寄りが生活する場所、または交流する場所、こういったものが少しでも増えたら、さらに子どもたちの見る目も変わるし、年配者の頑張ろうとする姿が変わってくるような気がするんです。このように、頑張るための施策についてはどう思いますか。

市長：今おっしゃったとおりで、子どもたちに教えるということが、自分が学んだ成果の一番大きなものではないかと私自身も思っております。子どもたちが大人から話を聞くことによって、地域見守り隊として見る大人の像とは違った郷土の先輩として見る像と、バランスよくやっていければいいと考えます。例えば、去年文化

祭が終わったら子どもに教えるのもそれで終わりかというと決してそういうことではない。今年もまた文化祭があるし、歴史は継続するというか、大人の人も自分たちの学んだことをさらに多くの人に教えることで、子どもたちからエネルギーをもらってさらに頑張っていこう、郷育カレッジでもまた頑張っていこうとなるはずです。そして、さらに他のことにも努力していこうということになってくることを期待しているところであります。

川﨑：他に何かありますか。

笠置：コミュニティ・スクールの件です。子どもたちが大人とふれ合い、技術や知恵を多く学んで生きる力を習得するということがとてもすばらしいことだと思います。中には、失敗したり我慢したりすることもあると思いますが、それがやりがいの一つとなり、人生経験となり、たくましい心と体が育っていくんじゃないかなと思います。私も応援したいと思います。

そんな中学生が、自分たちで考えて海岸清掃などのボランティアをされておりますが、そんな彼らのアイデアや実行力を生かして、福津市の施設を活気づけられないかなと思って考えました。例えば、わかたけ広場や横にあるキャンプ場を若い子どもたちのアイデアと地域の皆さんの力でアイデアを出し合って、すばらしい手づくりの広場が作れないかなと思いました。そうした中から、シルバー世代の皆さんがこれまで人生で学んでこられた数多くのポケットの中から、たくさんの技術を引き出すとともに、その方々とお話をしたり聞いたりしているうちに、生きた職場体験の形ができて有意義になるのではないかなと思いました。

そして、先日フクスタというすばらしい施設を見学させていただく機会がありました。学習とか芸術とか様々な分野においてとっても充実して、子どもたちが自由に伸び伸びと学習ができる場所になっていました。そして指導員もいてすごく安心・安全な場所なのですが、市内の子どもたちの数からみると、そこを利用している子どもたちの数がすごく少なくて、一部の子だけになっているのがすごく残念に感じました。もっともっと多くの子どもたちに利用していただけるように保護者の方たちにしっかりともっと伝えるいい方法がないものかと思います。市長のお考えが何かあったら教えていただきたいなと思います。

市長：兄弟あるいは友達同士なんかで行くのがきっかけになると思うんですよね。そういうのをできるだけ増やしていったらだんだん行きやすくなるんではないかと思います。そういうきっかけ作りをいろんな場面で取り組んでやっていくべきと思っています。

金子：主にコミュニティ・スクールのお話を伺いましたので、市長から高い評価をいただいているということは大変ありがたく思っておりますし、もう少し充実していきたいと考えております。

コミュニティ・スクールの基本方針は、郷づくりの考え方と近いものがあります。我々は、コミュニティ・スクールの基本目標を

「行きたい学校・帰りたい家庭・住みたい地域」ということを基本目標にしております。その手法として、大人の本気が子どものやる気を引き出して、そして地域を元気にするということでありますので、コミュニティ・スクールからさらに今一歩進めて、「スクール・コミュニティ」という形で地域を元気にする方向で進めているところです。ただ、これまで教育委員会は、幼稚園と小中学生を対象とした教育の総合計画でしたが、今回の機構改革に伴って郷育推進課も教育委員会所管となりましたので、幼児教育や成人教育、老人教育も教育委員会が所管することになろうかと思います。これまでは「夢や希望をもち、健やかに育つ福津っ子」という表題で総合計画等も作ってきましたが、市長として今後、「こういう市民像を作ってほしい」というのがあれば、それを参考にしたいと考えておりますので、市長の考える大人像を教えてください。

市長：一つは、「物事に挑戦するそういう気持ちをもった人になってもらいたい」と思っています。非常に難しい問題が多々ある中で、物事に挑戦しようとするチャレンジ精神をもった人であれば、必ずや成功するだろう。その一人が挑戦するためには、家族であったり学校であったり、それを支える人がどうしてもいるわけで、できるだけ多くの人にそういう子どもたちを育てていってもらいたいと思います。根本はやはりチャレンジ精神をもった人になってもらいたいと思っています。

金子：今おっしゃったのは、「夢や希望をもち、健やかに育つ福津っ子」の中にもある、物事に挑戦する子どもを育て、そしてそのことが大人になってからも、チャレンジ精神に満ちた大人になっていくんだろうということだと思います。最初に、市長のお話の中にも、例えば歴史や文化を大切にして地域に愛着を感じる、そういう人間を作ってほしいとのことでしたので、大人としてもやはり福津市の自然、歴史や文化を大切にして、そして地域に愛着を感じるような大人も福津の市民として必要なんだというふうに捉えてよろしいですね。

市長：実は今、思っていることが一つあります。今まで東京一極集中で日本全国動いてきたわけでありますが、それが少しずつ冷めつつあるのかなと感じます。新しい目標を持たなければということになってくると、この福津などは、非常に自然が豊かで歴史もあって、このまちを良くしていくことに生きがいを見出す子どもや大人がもっと出てくるんではないかと考えます。日本全体が地方創生の流れになってきているというふうに思うのです。この地域は農業があるのでこれをさらに伸ばしていく、あるいは伸ばせるような人材を作る。そして、いかに福津で消費できるか、あるいは販売するかということも非常に重要になってくるのではないか。そのことに福津以外の人がだんだん着目してくると、この福津の地で自分も行ってやってみようかなという若者たちがもっと増え

てくると、福津市の前途は、非常に明るいものになるし、東京まで行って四苦八苦する努力をするより、それなりの価値のあるものを求める動きに少しずつ変わっていくのではないかと思います。全国ではおそらく、どの県・都市も苦労してるんじゃないでしょうか。その点からも、この郷土愛というのは大きなバックボーンになるというふうに私は思っておりますので、よろしくお願いします。

藤井：先ほどの郷土愛については、とてもすばらしいと思います。私のような子育て世代としては、やはり教育面が気になりますが、その中に郷づくりの方々や郷育カレッジの方々の協力があるということで、とてもありがたく思っております。

子育てしやすい環境づくりとして、福津市に市民プールとか総合市民体育館だとかあると、将来は福津市から、地域が育てたオリンピック選手が出るのではないかと期待できます。

また、市の発展はすべての人材の育成にあるとおっしゃっていましたが、高齢者の方にも健康増進に役立てていただけるよう、プールや体育館があったらいいなと思いました。

また、郷育カレッジについても、今は中学生でも学べる講座はたくさんありますけど、夏休み期間限定だとか、未就園児も含めて親子で参加できるような講座、あるいは、おじいちゃん、おばあちゃんを含めた３世代で参加するような講座などもあると、もっと充実してくるのではないかと思いました。

市長：３世代で一緒になって学べるものが欲しいですよね。それから、体育館を作ってほしいと言われましたけど、作りたいという気はあるんだけど、財政面も踏まえて、平成３１年４月までは福間小学校を集中的に整備しなくてはいけない状況でありますので、それが終わってから取り組めたらいいのではと考えています。確かに、次世代の人のためを考えた意見を受け止めていかないといけないとは以前から思っています。塩田跡地があるのに野放し状態になっていますが、あそこに陸上競技場を作ったらどうかなって思ったこともあります。それだったら、経費も比較的かからないのではないかと思います。また、体育館を作ったらさらに福岡県や市のバレーボール大会を、小学校の体育館よりも高い天井でやれば、もっと伸びやかにできるだろうなというふうに思ったりしています。私もそういう体育施設も考えなきゃいけないという気はあります。しかし現実的には、子どもの数がうれしいことに増加の一途をたどっており、小学校の増改築の必要が出てきましたので、体育施設の建設については、今は自分の気持ちを封印している状態だということが正直なところです。

川﨑：いろいろな意見が出ましたが、話を聞いていると、教育の周りの部分が今は中心になってるようです。次は、教育の中と言いますか、例えば国際化とか英語教育、教師が特に苦労している点などについて、何かありましたらお話していただきたいと思います。

市長：英語教育は自然と体に入ってくるようですね。幼稚園でもやってますからね。幼稚園の子どもたちが英語を何で学んでいるのか知らないけど、まさにアメリカ人の言葉そのまましゃべったりする子もいます。学校でも英語教育については、徐々に取り組んでいきたいという思いはあります。

福津市の特徴の一つは、女性が働きやすいようなまちにしようということで、女性の参画を積極的にやってきています。しかし、それをさらに発展させていこうとすれば、働く場はできても、自分の子どもの幼児教育を認めてくれる場所があるのかということが心配になってくるでしょう。来年には、また子ども園が１園新設されるという話も聞いておりますが、実際のところ待機児童の解消は難しいと思うんです。女性が働こうとすれば、子どものことも検討していかなくてはいけないので、思うように働けないということがあるんじゃないかなと。ですから、待機児童の解消という課題は、これからもずっと続いていくのではないかというふうに思っています。ただ、待機児童の問題は、数年後には小学校での学童保育の問題へと移っていきます。一つの問題を解決するためには、市の行政を全体的に捉える必要があります。

学校の中の問題で私が気になっているのは、いろんな子どもたちから聞こえてきたのが、「質問をしたくて職員室に行ったけど先生がいなくて困った」という言葉でした。学校の中では、この部分をどうにかしないといけないと思うんです。ただ、それを解決しようとするとまた、そこだけの問題ではなくて全体を動かしてみないといけなくなるかもしれないので、まず、どこから始めて、どのように進めていったらいいのか、問題点を洗いざらい出して、全体的にこれが良いという方向にもっていかないといけないでしょう。難しいことを一つ一つ乗り越えていかないといけないなと思っています。

川﨑：御意見等はありますか。

青木：新聞に出ている一番大きな字で「生き抜く地力」と書いてありますが、人づくりが進行していくと、そこが住みやすいまちということに置きかえることができるのではないかと思います。そこで、教育というものが、住みやすいまちにどうかかわっていくのかということが大綱の一番大事な点だと思います。直接的な教育の面だけじゃなくて、例えば待機児童の件だとか医療の件だとか、あるいはお年寄りや女性も働きやすいかなど、福祉面の充実も出てくると思いますが、やはり医療面とか教育面のこととか、福津・宗像は県内で最も犯罪の少ない地域の一つであることとか、そういうことが住みやすいまちの定義づけの一つに挙がってくると思います。

先ほど、待機児童の問題をおっしゃいましたが、これは東京都知事選でも一つの大きなテーマになっていて、指導者の待遇の改善が急務であると聞いています。同様に、学校の先生方も待遇改善

はどうしても必要になってくると思います。人づくりをしていく中で、直接現場で子どもたちの様子はずっと見せていただいていますが、本当に中学生は真面目な子が多いというか、頑張っていると僕も感じます。コミュニティ・スクールで地域の方々がいろいろ学校に入って来られて、学校の先生からだけではなくて、地域の人からいろいろな情報が入ってくるということも素晴らしいことで、そのことによって成長している子どもたちってたくさんいると思います。ただ、一方で、コミュニティ・スクールや郷づくり、郷育カレッジの中で、先生方が地域の方々とかかわっていく必要が生じて、今までになかった新たな時間が増えています。

学校現場では夜の９時、１０時まで残業する上に、土曜・日曜は部活動の指導がある。先生方の負担軽減というものをもう少し真剣に考えていく必要があるのではないかと感じました。また、コミュニティ・スクールも成果が上がっている部分も確かにあると思います。郷づくりや郷育カレッジに参加している方々にとっては、「コミュニティ・スクール」は聞き慣れた言葉になっていると思いますが、そうではない方々や保護者にとっても、保護者自身が立ち上がって何かコミュニティ・スクールにかかわっていこうと思えるようなシステムを作っていくことも大事なことではないかなという気はします。

調べたところによると、うつ病など精神疾患で休職している教職員の数は、1992年では全国で1,111人でしたが、17年後の2009年には5,458人で、しかも17年連続増加というデータが出てました。保護者の対応だとか、いろいろな問題が出てくる中で、待機児童や学校の課題というのは、先生方の待遇を変えていくなどの教育システムの改善というのが、新しい大綱を作る上で必要になってくると思います。事務用品等についても、自分たちで買わなくてはならない場合もあるという現状も聞いておりますので、そういう点も見直していただくと、学校での子どもたちの様子が良くなればなるほど、若い人たちも「この市は子どもを育てやすい」と言って集まってくる。それを継続していくことによって、次の世代の人たちも、団地ができて３０年ぐらい経過して空き家が出てくるというような状況の中であっても、いわゆるリピーターというか、この地域を形成する基盤となる教育というものを新しくみんなで作り上げていくのが大事じゃないかと感じました。

川﨑：それに対していかがでしょうか。

市長：学校の教職員の待遇は、今まで以上に考えてあげないといけないだろうと思います。消耗品に限らず、教材に絡むことです。小学校の時はあまり気にしてなかったけど、中学校に入ったら使うのが難しくなったという話は聞いたことがあります。消耗品であると同時に教材に関することだろうと思いますから、教材に関してはできるだけ子どもたちのために自由に使えるようにしてやったほうが先生たちもやりやすいでしょう。そういう点は、教職員を

取り巻く環境というのは、新たな目で見ていかないといけない。「福津市の学校にだけは異動したくない」と言われないように努力をしたいと思っております。

川﨑：ほかに何かありませんか。

笠置：待機児童などいろいろなお話がありますが、神興幼稚園について、市長にお願いがあります。来年度から上西郷幼稚園と統合して、神興幼稚園は園児が増えることが予想されます。先日幼稚園訪問に行ったときに気づいたことなんですが、我が家の子どもたちが３０年ほど前に通園した時と比べて、園内があまり変わってないというか、すごく懐かしい感じがしました。その一方で、変わっていないことにすごく不安も感じました。子どもたちは園庭で走り回って遊んだ後、汗だくになって手を洗って教室に入ります。蒸し暑い中で、先生の絵本の読み聞かせを聞いていて、子どもたちも汗をぬぐいながら絵本に集中している姿を見ると、室内にいながらでも熱中症になるんではないかと、ちょっと心配しました。それと、教室の中にお弁当をそのまま置いてあります。そしたら、お昼までに傷んでしまってノロウイルスとか0-157の心配も、今後起こりうるのではないかという心配もあります。そこで、神興幼稚園にもエアコンをつけていただいて子どもたちがより快適に暮らせるような整備をしていただけたらと思います。

それと、昨年度で閉園した東福間保育所に以前、私が務めていた時のことです。先生が、具合が悪くなった園児を事務室で簡易ベッドに寝かせて、自分の机の横で看病していたのです。神興幼稚園と同じように和室もあるのですが、そこだと目が行き届かない。だからと言って付きっきりで和室にいるわけにもいかない。仕方なく事務室で看病するという状況がありました。神興幼稚園でも、今でもそういったことがあるのではないでしょうか。現状に合わせて和室と職員室を使いやすく改造していただきたいと思います。そして、神興幼稚園と上西郷幼稚園が統合しても、まだ現在の園児は定員数に達していませんので、来年の４月は定員いっぱいで出発できたらうれしいなと思います。よろしくお願いします。

市長：一般的な話でいうと、子どもさんたちの数は、減ってきているんです。ですから、幼稚園も保育園も将来を見据えて、あまり校舎の拡張とかということよりも、内部の充実に少しずつ転換しつつあります。そうなると、施設そのものは私立のほうが立派ですし、とにかく、うちの園のほうがこんなに優れた教育をやりますからとＰＲします。その努力たるや、すさまじいものがありますよね。一方で、公立の幼稚園・保育所というものは、利用してくれる人に対しては最大のサービスをするけれども、新たに来てもらいたい人に対してのサービスが苦手というか。公立なのに、そんなに宣伝することに重点を置くべきかということも念頭に置きながら、いかにして園を充実させていくかということにエネル

ギーが今から先もいるんじゃないかなと思っています。

川﨑：ほかに何かありますか。

金子：先ほど、英語教育の話もありました。それから、今度新しく図書館が津屋崎地域にもできます。この状況で、市長から教育委員会に対して、「もう少しこれはしっかりやってほしい」という点。例えば、英語教育を充実させるために、すべての学校にALTを設置しなさいとか。あるいは、中学３年生や小学校６年生になったら、英語の技能検定テストを全員受けさせなさいとか。またあるいは、福津市民は全員がもう読書家で、毎日誰もが本を１冊か２冊持って歩いているような市民像を描いてるから、市民一人ひとりに読書マイレージカードを持たせてやれよとか。何かしら市長の福津市民に対する教育の強い思いがありましたら、私どももそこに何らかのインパクトをつけて取り組んでいきたいと思っています。教育委員会にこれをしっかりやれよと言いたいことがありましたら教えていただきたいと思います。

市長：まず英語教育に関することで言うと、中学校卒業するまでに英検３級程度のレベルを持った子どもたちが一人でも多く育って、国際化の時代に対応していってほしいという思いはあります。英語教育に関しては、将来の目標として思っておりますので、教育委員会と協議をしながら、ぜひ進めていきたいと思います。

読書の関係でいうと、私が市長になってすぐ取り組んだのが「子ども司書」。つまり、図書館の内側の視点から読書というものを考えるということが、当時は話題となりました。「どうして子ども司書を始めたのですか」と。ただ子どもたちの読書熱をあおるというわけではありません。本を読め、本を読めというよりも、内側から読書に親しむほうがおもしろいんじゃないかと考えたのです。福岡県内で初めて子ども司書というものに取り組んでみると、あちこちから好評でした。ただ、読書の問題は、これとはちょっと違いますよね。もちろん、福津市民が全員１冊抱えるようなことになれば、それはもう本当に素晴らしいと思うのですが、これは趣味の問題もありますから、ちょっと様子を見て考えていきたいと思います。確かに、津屋崎地域に図書館ができるということは、地域の読書熱が上がるであろうと期待できますので、福津市立図書館とはまた違ったやり方で新しい読書熱をあおっていきたいと思っています。

金子：福津市はユニバーサルデザインにおいては、非常に進んでいる町だと私は思っております。特に、あの大通りの辺りは、車道と歩道の区別がしっかりしていてとても歩きやすい。また、公共施設や駐車場についても障害者に優しい。学校も車椅子でもきちんと入れるように整備されています。ユニバーサルデザインの考え方は、市長が取り組む市民にやさしいまちづくりの基本となっているものと思っております。学校においても、ユニバーサルデザインの授業づくりが必要だと言われております。つまり、これから

の社会は、多様性に対応しなければならないということが大前提にあります。例えば、性的少数者（ＬＧＢＴ）の問題に対しても多様性、あるいは障害のある人、ない人に対する多様性。あるいは部落差別問題にしてもそうだと思います。そういう多様性に対応していくということは、これからの社会のありようとして教育が特に取り組んでいかなければならない視点です。私は、福津市もユニバーサルデザインのまちづくりは今後も進めていっていただきたいと思いますし、そのことを学校教育の中に子どもたちもそのような環境の中で、そして子どもたちにもそういう理念と態度とを育成していきたいと思っております。

市長：あの道路は実は、九州で県庁所在地以外では１カ所しかない、福津市だけなんです。それは、私が県議会議員の時に、九州でモデル道路を作ろうではないかと言って半ば強引に作った面もあるんです。これは県の県土整備部の中で高い評価を得ておりまして、視察では必ずここを見せるそうです。福岡県に視察に来られて、車道、自転車道、そして歩道と分離された道路を見るために連れて来ています。普通だったら車道部分を削って自転車道を作るらしいんですけど、そうしなくて、車道は従来のまま残して、歩道を広げて自転車道と歩道を作ったというような、九州の県庁所在地以外では福津市だけしかないことは、皆さん方にも記憶しておいていただきたいなと思います。

それと、今から先は多様性に対応できる、これは子どもに限りませんが、大人もそういう人材を育成していかなければいけないというのは、まさに国の課題でもあるわけで、ぜひそうした接触の仕方、ふれあいの仕方というものを、健常者であろうがなかろうが、スムーズに入っていけるようにしたいなと思っています。

川﨑：それでは、フリートークの内容について、最後に今日の感想を一言いただきたいと思います。

市長：今日は本当にいいフリートーキングでした。テーマが明確な目標があって、できるだけ皆さん方の日ごろ思っていらっしゃること、そしてまた私が、日ごろ市政を全うする上で思っていることがたまたまこの新聞記事になりましたので、これをもとにお話をさせていただきました。

皆さん方がお考えになっていらっしゃることが、非常に理解できるとともに、私もこういう話をする機会を与えていただいたことに感謝したいと思っています。今後も、総合教育会議の中でなくてもいいですから、こういう会議をやっていくと、さらに教育に対する市の行政全体の目が教育にも向いてくるのかなということを期待しているところです。

とにかくこのまちは、教育が欠かせないまちだというふうに思っています。これは宗像市でもそうです。今でも思い出すのは、福間小学校のある保護者の人が、玄海東小学校のことをよく覚えていました。「今あそこが一番困ってるんですよ。とにかくけんか

ばっかりしてるから」と言うのです。福間の人がなぜ玄海東小学校のことをそんなに心配しているのかと。このことは非常にすごいなと思いました。自分の学校のこともちろん心配しているんだろうけれども、ああいうふうにないと、やっぱり自分の地域の学校がよくならないのだろうなと。他との比較というのも非常に大事なことですから、その話を聞いたときに、それだけの視野を持ってある方の根の大きさというか、要するに目のつけどころが違うなという、視野の大きさにちょっとびっくりしたことがあります。もうずいぶん前のことで、私も時々この話を思い出しながら、他の学校との比較、他の地域との比較、それから他のまちとの比較、こういう比較の目を持っておかないといけないと肝に銘じております。これはまちづくり全体にも言えることでありますが、うちの市だけなぜ沈んでいくんだという目に遭わないように、ぜひ周りを見る目も養っていきたいと思っています。

これから先もまた一緒になってさらなる福津市の教育を、さらに一段上を目指して頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

4　その他

川﨑：協議次第については以上で終わります。
その他事務局から何かありますか。

増田：コミュニティ・スクールついて紹介いたします。
来月８月６日土曜日、午前９時から１２時２０分まで、津屋崎中学校のスカイ・ルームで「コミュニティ・スクールフォーラム」を開催いたします。
今年度も市内の小中学校から、児童・生徒が参加し、世界に目を向けた作品発表、あるいは子どもたちの国際的な視野を広げるために、大人たちが今何ができるかについて語り合っていただきます。当日は、市長にも御参加いただく予定です、福津市教育の中核と位置づけるコミュニティ・スクール推進事業でありますので、御紹介させていただきました。以上です。

川﨑：その他に何かありますか。

5　閉会

それでは、次回の総合教育会議は、緊急に集まりいただくような事案がなければ、本年１０月２７日木曜日に予定をしております。会場は、次回からは市役所別館１階の大ホールで開催したいと思っています。正式に決まりましたら、委員の皆様、関係者の皆様には御案内をいたしますので、よろしくお願いします。
本日は、１回目ということで市長の言葉とそれに対する教育委員のフリートーク形式で進めてまいりましたが、２回目からは事務局で、今日出てきた意見や感想等を抽出して、それについて協議

していきたいと思っています。また御協力をよろしくお願いいたします。
以上をもちまして、平成２８年度第１回総合教育会議を終了させていただきます。本日は、熱心な意見交換ありがとうございました。